



パーキンソン病について No.7

パーキンソン病の薬物治療について

ドパミンアゴニスト

① 作用

ドパミン受容体に直接作用することにより、パーキンソン病で足りなくなったドパミンの作用を補い、症状を改善します

② 特徴

パーキンソン病の運動症状を改善します
L-ドパより効果は弱いですが、効果が持続します
この薬剤で治療を始めることで、L-ドパ治療に伴った運動合併症の発現を遅くできます

③ 薬剤名

薬剤の化学構造の違いにより、麦角系と非麦角系の2種類があります

非麦角系

●ニュープロパッチ 2.25・4.5・9・13.5・9・18mg
1日1回 9~36mg 貼付

●ミラペックス LA錠 0.375・1.5mg
(プラミペキソール塩酸塩 LA錠 1.5mgMI)
1日1回 1.5~4.5mg

●レキップ CR錠 2・8mg
1日1回 2~16mg

麦角系

●カバサル錠 0.25・1mg
(カベルゴリン錠 0.25・1mg)
1日1回 0.25~1mg



④ 副作用

- 悪心・嘔吐・食欲不振
投与初期にみられるが、慣れてくると消失する
- 幻覚・妄想
目に見えない物が見えるなどの症状
- 日中の過度の眠気、突然の眠気（突発的睡眠）
非麦角系ドパミンアゴニストに多い
- 心臓の弁の異常（心臓弁膜症）
麦角系ドパミンアゴニストの長期使用で出現

話題の新薬 アメナリーフ錠

抗ヘルペスウイルス剤

アメナリーフ錠は、マルホで開発された抗ウイルス剤です。本剤は核酸類似体ではなく、ヘルペスウイルスのDNA複製に必須の酵素であるヘリカーゼ・プライマーゼ複合体の活性を阻害することで、水痘・帯状疱疹などの原因となるヘルペスウイルスの増殖を抑制します。既存の抗ウイルス剤とは作用機序が異なるため、交叉耐性を示さないと考えられています。1日1回必ず食後に服用します。腎機能による薬物動態への影響は小さく、投与間隔や投与量の調節は不要です。

薬価 200mg 1錠 = 1469.7円

副作用情報 プラザキサカ[®]セル

NBIから販売されている血液凝固阻止剤の「プラザキサカ[®]セル 75・110mg」は、直近3年2か月の副作用報告のうち因果関係が否定できない副作用として、「肝機能障害関連症例」が5例（うち死亡1例）報告されました。そのため重大な副作用の項に「急性肝不全、肝機能障害、黄疸」が追記されました。

おたふくかぜ軽視は禁物

4~5年おきに大きな流行があるおたふくかぜは「子どもの軽い病気」と誤解されがちです。合併症のうち「難聴」は、改善が困難にも拘らず実態が不明であるとして、日本耳鼻咽喉科学会が全国調査を実施し、過去2年に300名以上が発症したことが分かりました。おたふくかぜの特効薬はありませんが、予防ワクチンがあります。専門家は「ワクチンは自然に感染するよりはるかに安全。ぜひ接種を検討して」と呼び掛けています。同学会が、直近で流行した年について調べたところ、全国約3500の耳鼻科で336人が難聴と診断され、詳細が判明した314人のうち261人（約8割）が生活に支障があるレベルの症状でした。

